

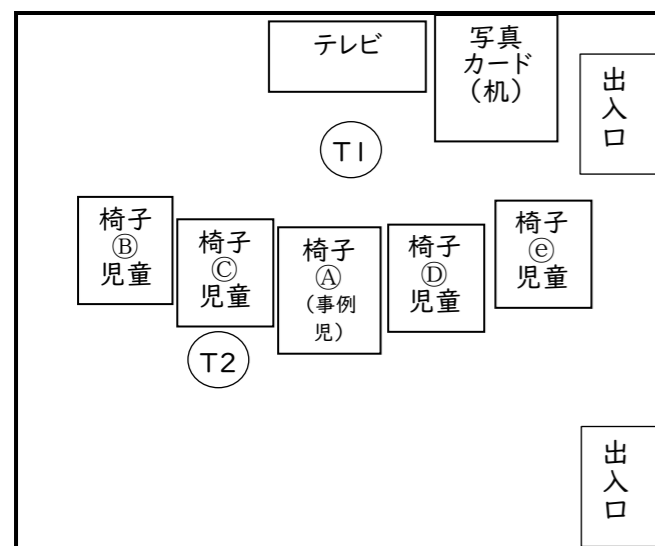
授業づくりシート

領域名 発声

2 学年

テーマ	楽しく声を出そう！続けて声を出してみよう！	
事例児の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな活動やわかる活動には集中して取り組むことができる。(環境の把握) ・一文字ずつであればおおむねわかりやすい発音でおおむ返しすることができる。(環境の把握、コミュニケーション) ・三文字以上の意味のある発声ができない。(環境の把握、コミュニケーション) ・動作模倣が苦手で顔の体操、舌の体操ができない。鏡を使うことで少し舌を出せるようになってきた。注視することも苦手。(環境の把握、身体の動き) ・自分の中の単語のイメージが固定化されている。ください→「くしゅ」ばなな→「たこ」(環境の把握、コミュニケーション) 	
事例児の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三文字以上の単語をつなげて発声することができる。(環境の把握、コミュニケーション) ・顔の体操や舌の体操で教師を模倣して動かせる部位を増やす。(環境の把握、身体の動き) 	
活動内容と具体的な手立て		
活動内容	ねらい	具体的な手立て
発声練習	<ul style="list-style-type: none"> ・連続して声を出すことができる。 ・イラストで示した単語が何文字で構成されているかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストと文字数が何文字かわかりやすく示したカードを提示する。 ・マイクを向け、声を出しやすくしたり、自身の声を聞こえやすくしたりする。 ・イメージの固定化があるので、本人にとって身近でない単語を扱う。
舌の体操	<ul style="list-style-type: none"> ・舌の動かせる範囲を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が目の前で、イラストを見せたり、手本を見せたりする。 ・鏡を使い、自分の舌の動きがどうなっているか見られるようにする。 ・舌圧子等を使い、やることをわかりやすくする。

○場の配置



○教材教具等

○文字数をわかりやすくしたイラストカード(発声練習)

・A4サイズで見えやすい大きさ

・文字を○で囲み、単語の文字数をわかりやすくする。

・イメージの固定化があるので、本人にとってあまりなじみのない単語。

○鏡・舌圧子

・自分の舌の動きを把握しやすくする

・舌で触ったり、押ししたりすることで舌を動かせる範囲を広げる。

○展開

時配	活動内容	教師の支援等
9:50	○初めの挨拶	・全員が着席し、教師も座った状態で挨拶をする。
9:52	○返事の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りやすいようにマイクを使用する。 ・対面に座ってマイクで名前を呼び、返事を促す。(T1)
9:54	○顔の体操	<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビに動画を流し、隣で手本を示しながら行う。(T1) ・後方から意識してほしい部位を触れたり、言葉かけしたりする。(T2)
9:56	○口・舌の体操	<ul style="list-style-type: none"> ・対面に座り、手本を示しながら模倣しやすいうちに行う。(T1) ・児童の様子によって、口形のイラストを見せたり、鏡を見せて確認するよう促したりして取り組む。(T2)
9:58	○母音の発声	<ul style="list-style-type: none"> ・発声した声を聞き取りやすいように、マイクを使用する。 ・手本を見せたり、口形のイラスト見せたりして行う。(T1)
10:00	○動物の鳴きまね	<ul style="list-style-type: none"> ・発声した声を聞き取りやすいように、マイクを使用する。 ・模倣できるように、動物や口形、名前が入ったカードを見せながら、手本を見せる。(T1)
10:05	○発声練習	<ul style="list-style-type: none"> ・文字数が少ない言葉から発声し、少しずつ文字数を増やしていく。 ・イラストと文字が入ったカードを示しながら、手本を行ってから、児童が発声するようにする。(T1) ・文字の数がわかりやすいように、一音ずつ手を叩きながら発声するよう促す。
10:10	○終わりの挨拶	・全員が着席し、教師も座った状態で挨拶をする。

○成果と課題

○年間通してほぼ同じ内容で繰り返し積み重ねることで、顔の体操では、自分で模倣できる動きが増えてきた。

○舌の体操では初めに鏡を使うことで、舌を出すイメージがもてるようになり、途中から舌圧子を使用することで舌をより前に出そうとしたり、上下左右に動かしたりできるようになってきた。

○文字を○で囲んだカードを使用することで、一文字ずつははっきりと区切って発声できる児童が出てきた。

△児童によって実態差があったので、それを踏まえて活動や取り扱う単語に変化をつけるとよかった。

△変化が苦手な児童がいたため、途中での教材の変更ができなかった。